

計算書類に対する注記（法人全体用）

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）
 - ・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法
 - ・上記以外の有価証券で時価のないもの－移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ・有形固定資産－定額法
 - ・無形固定資産－定額法
 - ・リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース契約1件当りのリース料総額が300万円を超えるリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
 - ・長期前払費用－定額法
- (3) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金－職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
 - ・退職給付引当金－職員の退職金の支給に備えるため、一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会に預け入れた掛金を退職給付引当金に計上している。
- (4) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
引続き通常の賃貸処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 法人で採用する退職給付制度

常勤職員については、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会の実施する退職金共済制度に加入している。

3. 法人が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当法人の作成する計算書類は、以下のとおりになっている。

- (1) 法人全体の計算書類（会計基準省令第1号第1様式、第2号第1様式、第3号第1様式）
- (2) 事業区分別内訳表（会計基準省令第1号第2様式、第2号第2様式、第3号第2様式）
当法人では、社会福祉事業のみを実施しているため作成していない。
- (3) 社会福祉事業における拠点区分別内訳表（会計基準省令第1号第3様式、第2号第3様式、第3号第3様式）
- (4) 公益事業における拠点区分別内訳表（会計基準省令第1号第3様式、第2号第3様式、第3号第3様式）
- (5) 収益事業における拠点区分別内訳表（会計基準省令第1号第3様式、第2号第3様式、第3号第3様式）
当法人では、収益事業を実施していないため作成していない。
- (6) 各拠点区分におけるサービス区分の内容
 - ア 法人本部拠点（社会福祉事業）
 - ・「法人本部」
 - イ 三幸の園拠点（社会福祉事業）
 - ・「特別養護老人ホーム三幸の園」
 - ・「短期入所施設三幸の園」
 - ・「三幸の園デイサービスセンター」
 - ・「三幸の園ホームヘルパーステーション」
 - ・「三幸の園指定居宅介護支援事業所」
 - ・「訪問看護ステーション大平台」
 - ・「地域包括支援センター大平台」
 - ウ 山崎園拠点（社会福祉事業）
 - ・「特別養護老人ホーム山崎園」
 - ・「ユニット型特別養護老人ホーム山崎園」
 - ・「短期入所施設山崎園」
 - ・「ユニット型短期入所施設山崎園」
 - ・「やまざきデイサービスセンター」
 - ・「やまざきホームヘルパーステーション」
 - ・「グループホームやまざき」
 - ・「山崎園居宅介護支援事業所」
 - ・「生活支援ハウス山崎」
 - エ 松城拠点（社会福祉事業）
 - ・「松城デイサービスセンター」
 - ・「松城指定居宅介護支援事業所」
 - オ 神ヶ谷園拠点（社会福祉事業）
 - ・「救護施設神ヶ谷園」
 - カ 建設特別会計

4. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は、以下のとおりである。

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	352,857,837	0	0	352,857,837
建物	2,519,238,586	21,600,000	115,299,770	2,425,538,816
定期預金	3,000,000	0	0	3,000,000
合 計	2,875,096,423	21,600,000	115,299,770	2,781,396,653

5. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩し

該当なし

6. 担保に供している資産

担保に供されている資産は、以下のとおりである。

土地（基本財産）	119,447,337円
建物（基本財産）	1,130,191,116円
計	1,249,638,453円

担保に供している債務の種類および金額は、以下のとおりである。

設備資金借入金（1年以内返済予定額を含む）	36,150,000円
計	36,150,000円

7. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
基本財産			
土地	352,857,837	0	352,857,837
建物	4,059,925,974	1,634,387,158	2,425,538,816
定期預金	3,000,000		3,000,000
小 計	4,415,783,811	1,634,387,158	2,781,396,653
その他の固定資産			
土地	169,891,500		169,891,500
建物	119,101,900	49,039,095	70,062,805
構築物	249,650,919	96,070,659	153,580,260
機械及び装置	9,523,971	4,340,342	5,183,629
車輛運搬具	77,906,767	68,094,712	9,812,055
器具及び備品	247,695,055	201,250,874	46,444,181
建設仮勘定	3,851,244		3,851,244
小 計	877,621,356	418,795,682	458,825,674
合 計	5,293,405,167	2,053,182,840	3,240,222,327

8. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は、以下のとおりである。

該当なし

9. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

10. 関連当事者との取引の内容

該当なし

11. 重要な偶発債務

該当なし

12. 重要な後発事象

該当なし

13. その他の社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

(単位：円)

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高		
		1年以内支払額	1年超支払額	合計
器具及び備品	2,643,840	528,768	710,316	1,239,084

計算書類に対する注記（法人本部拠点区分用）

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）
 - ・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法
 - ・上記以外の有価証券で時価のないもの－移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ・有形固定資産－定額法
 - ・無形固定資産－定額法
 - ・リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース契約1件当りのリース料総額が300万円を超えるリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
 - ・長期前払費用－定額法
- (3) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金－職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
 - ・退職給付引当金－職員の退職金の支給に備えるため、一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会に預け入れた掛金を退職給付引当金に計上している。
- (4) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
引続き通常の賃貸処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 採用する退職給付制度

常勤職員については、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会の実施する退職金共済制度に加入している。

3. 拠点が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当拠点区分の作成する計算書類は、以下のとおりになっている。

- (1) 法人本部拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3(Ⅷ)）
 - ・「法人本部」
- (3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3(Ⅸ)）
 - ・「法人本部」

4. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は、以下のとおりである。

該当なし

5. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩

該当なし

6. 担保に供している資産

該当なし

7. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他の固定資産			
土地	151,611,700		151,611,700
建物	35,469,000	20,568,848	14,900,152
構築物	3,150,000	1,143,182	2,006,818
器具・備品	1,152,175	1,152,173	2
小計	191,382,875	22,864,203	168,518,672
合計	191,382,875	22,864,203	168,518,672

8. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は、以下のとおりである。

該当なし

9. 関連当事者との取引内容

該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他の社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

計算書類に対する注記（三幸の園拠点区分用）

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）
 - ・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法
 - ・上記以外の有価証券で時価のないもの－移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ・有形固定資産－定額法
 - ・無形固定資産－定額法
 - ・リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース契約1件当りのリース料総額が300万円を超えるリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
 - ・長期前払費用－定額法
- (3) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金－職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
 - ・退職給付引当金－職員の退職金の支給に備えるため、一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会に預け入れた掛金を退職給付引当金に計上している。
- (4) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
引続き通常の賃貸処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 採用する退職給付制度

常勤職員については、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会の実施する退職金共済制度に加入している。

3. 拠点が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当拠点区分の作成する計算書類は、以下のとおりになっている。

- (1) 三幸の園拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3(Ⅱ)）
 - ・「特別養護老人ホーム三幸の園」
 - ・「短期入所施設三幸の園」
 - ・「三幸の園デイサービスセンター」
 - ・「三幸の園ホームヘルプステーション」
 - ・「三幸の園指定居宅介護支援事業所」
 - ・「訪問看護ステーション大平台」
 - ・「地域包括支援センター大平台」
- (3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3(Ⅲ)）
 - ・「特別養護老人ホーム三幸の園」
 - ・「短期入所施設三幸の園」
 - ・「三幸の園デイサービスセンター」
 - ・「三幸の園ホームヘルプステーション」
 - ・「三幸の園指定居宅介護支援事業所」
 - ・「訪問看護ステーション大平台」
 - ・「地域包括支援センター大平台」

4. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は、以下のとおりである。

(単位：円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	100,000,000	0	0	100,000,000
建物	696,753,383	21,600,000	31,446,160	686,907,223
定期預金	3,000,000	0	0	3,000,000
合計	799,753,383	21,600,000	31,446,160	789,907,223

5. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩

該当なし

6. 担保に供している資産

担保に供されている資産は、以下のとおりである。

建物（基本財産）	686,907,223円
計	686,907,223円

担保に供している債務の種類および金額は、以下のとおりである。

設備資金借入金（1年以内返済予定額を含む）	0円
計	0円

7. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
基本財産			
土地	100,000,000		100,000,000
建物	1,627,449,649	940,542,426	686,907,223
小計	1,727,449,649	940,542,426	786,907,223
その他の固定資産			
建物	18,349,650	6,296,314	12,053,336
構築物	31,289,087	27,508,683	3,780,404
車輛運搬具	37,295,786	34,465,549	2,830,237
器具及び備品	88,916,292	78,426,216	10,490,076
小計	175,850,815	146,696,762	29,154,053
合計	1,903,300,464	1,087,239,188	816,061,276

8. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は、以下のとおりである。

該当なし

9. 関連当事者との取引内容

該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他の社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

計算書類に対する注記（山崎園拠点区分用）

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）
 - ・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法
 - ・上記以外の有価証券で時価のないもの－移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ・有形固定資産－定額法
 - ・無形固定資産－定額法
 - ・リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース契約1件当りのリース料総額が300万円を超えるリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
 - ・長期前払費用－定額法
- (3) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金－職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
 - ・退職給付引当金－職員の退職金の支給に備えるため、一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会に預け入れた掛金を退職給付引当金に計上している。
- (4) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
引続き通常の賃貸処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 採用する退職給付制度

常勤職員については、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会の実施する退職金共済制度に加入している。

3. 拠点が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当拠点区分の作成する計算書類は、以下のとおりになっている。

- (1) 山崎園拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3 (㉑)）
 - ・「特別養護老人ホーム山崎園」
 - ・「ユニット型特別養護老人ホーム山崎園」
 - ・「短期入所施設山崎園」
 - ・「ユニット型短期入所施設山崎園」
 - ・「やまざきデイサービスセンター」
 - ・「やまざきホームヘルパーステーション」
 - ・「グループホームやまざき」
 - ・「山崎園居宅介護支援事業所」
 - ・「生活支援ハウス山崎」
- (3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3 (㉒)）
 - ・「特別養護老人ホーム山崎園」
 - ・「ユニット型特別養護老人ホーム山崎園」
 - ・「短期入所施設山崎園」
 - ・「ユニット型短期入所施設山崎園」
 - ・「やまざきデイサービスセンター」
 - ・「やまざきホームヘルパーステーション」
 - ・「グループホームやまざき」
 - ・「山崎園居宅介護支援事業所」
 - ・「生活支援ハウス山崎」

4. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は、以下のとおりである。

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	119,447,337	0	0	119,447,337
建物	880,076,931	0	43,389,079	836,687,852
合 計	999,524,268	0	43,389,079	956,135,189

5. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩

該当なし

6. 担保に供している資産

担保に供されている資産は、以下のとおりである。

土地（基本財産）	119,447,337円
建物（基本財産）	443,283,893円
計	998,107,885円

担保に供している債務の種類および金額は、以下のとおりである。

設備資金借入金（1年以内返済予定額を含む）	36,150,000円
計	36,150,000円

7. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
基本財産			
土地	119,447,337		119,447,337
建物	1,418,498,758	581,810,906	836,687,852
小計	1,537,946,095	581,810,906	956,135,189
その他の固定資産			
土地	5,279,800		5,279,800
建物	59,080,750	21,783,321	37,297,429
構築物	106,375,430	58,876,617	47,498,813
機械及び装置	9,523,971	4,340,342	5,183,629
車輛運搬具	20,011,890	14,000,104	6,011,786
器具及び備品	119,953,011	104,501,629	15,451,382
小計	320,224,852	203,502,013	116,722,839
合計	1,858,170,947	785,312,919	1,072,858,028

8. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は、以下のとおりである。

該当なし

9. 関連当事者との取引内容

該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他の社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

（単位：円）

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高		
		1年以内支払額	1年超支払額	合計
器具及び備品	2,261,520	452,304	678,456	1,130,760

計算書類に対する注記（松城拠点区分用）

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）
 - ・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法
 - ・上記以外の有価証券で時価のないもの－移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ・有形固定資産－定額法
 - ・無形固定資産－定額法
 - ・リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース契約1件当りのリース料総額が300万円を超えるリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
 - ・長期前払費用－定額法
- (3) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金－職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
 - ・退職給付引当金－職員の退職金の支給に備えるため、一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会に預け入れた掛金を退職給付引当金に計上している。
- (4) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
引続き通常の賃貸処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 採用する退職給付制度

常勤職員については、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会の実施する退職金共済制度に加入している。

3. 拠点が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当拠点区分の作成する計算書類は、以下のとおりになっている。

- (1) 松城拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3(㉑)）
 - ・「松城デイサービスセンター」
 - ・「松城指定居宅介護支援事業所」
- (3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3(㉒)）
 - ・「松城デイサービスセンター」
 - ・「松城指定居宅介護支援事業所」

4. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は、以下のとおりである。

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	41,332,000	0	0	41,332,000
建物	123,391,550	0	5,698,351	117,693,199
合 計	164,723,550	0	5,698,351	159,025,199

5. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩

該当なし

6. 担保に供している資産

該当なし

7. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
基本財産			
土地	41,332,000		41,332,000
建物	186,269,307	68,576,108	117,693,199
小計	227,601,307	68,576,108	159,025,199
その他の固定資産			
建物	262,500	81,331	181,169
構築物	1,196,566	1,058,960	137,606
車輛運搬具	11,264,530	11,264,525	5
器具及び備品	5,790,129	5,350,035	440,094
小計	18,513,725	17,754,851	758,874
合計	246,115,032	86,330,959	159,784,073

8. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は、以下のとおりである。

該当なし

9. 関連当事者との取引内容

該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他の社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

(単位：円)

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高		
		1年以内支払額	1年超支払額	合計
器具及び備品	382,320	76,464	31,860	108,324

計算書類に対する注記（神ヶ谷園拠点区分用）

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）
 - ・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法
 - ・上記以外の有価証券で時価のないもの－移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ・有形固定資産－定額法
 - ・無形固定資産－定額法
 - ・リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース契約1件当りのリース料総額が300万円を超えるリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
 - ・長期前払費用－定額法
- (3) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金－職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
 - ・退職給付引当金－職員の退職金の支給に備えるため、一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会に預け入れた掛金を退職給付引当金に計上している。
- (4) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
引続き通常の賃貸処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 採用する退職給付制度

常勤職員については、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会の実施する退職金共済制度に加入している。

3. 拠点が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当拠点区分の作成する計算書類は、以下のとおりになっている。

- (1) 神ヶ谷園拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3(Ⅱ)）
 - ・「救護施設神ヶ谷園」
- (3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3(Ⅲ)）
 - ・「救護施設神ヶ谷園」

4. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は、以下のとおりである。

（単位：円）

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
土地	92,078,500	0	0	92,078,500
建物	819,016,722	0	34,766,180	784,250,542
合 計	911,095,222	0	34,766,180	876,329,042

5. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩

該当なし

6. 担保に供している資産

該当なし

7. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位：円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
基本財産			
土地	92,078,500		92,078,500
建物	827,708,260	43,457,718	784,250,542
	919,786,760	43,457,718	876,329,042
その他の固定資産			
土地	13,000,000		13,000,000
建物	5,940,000	309,281	5,630,719
構築物	107,639,836	7,483,217	100,156,619
車両運搬具	9,334,561	8,364,534	970,027
器具備品	31,883,448	11,820,821	20,062,627
合 計	167,797,845	27,977,853	139,819,992

8. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は、以下のとおりである。

該当なし

9. 関連当事者との取引内容

該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他の社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし

計算書類に対する注記（建設特別会計拠点区分用）

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
 - ・満期保有目的の債券等－償却原価法（定額法）
 - ・上記以外の有価証券で時価のあるもの－決算日の市場価格に基づく時価法
 - ・上記以外の有価証券で時価のないもの－移動平均法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
 - ・有形固定資産－定額法
 - ・無形固定資産－定額法
 - ・リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース契約1件当りのリース料総額が300万円を超えるリース資産については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
 - ・長期前払費用－定額法
- (3) 引当金の計上基準
 - ・賞与引当金－職員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
 - ・退職給付引当金－職員の退職金の支給に備えるため、一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会に預け入れた掛金を退職給付引当金に計上している。
- (4) リース会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引
引続き通常の賃貸処理に係る方法に準じた会計処理を適用している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。

2. 採用する退職給付制度

常勤職員については、独立行政法人福祉医療機構の実施する社会福祉施設職員等退職手当共済制度及び一般財団法人静岡県社会福祉事業共済会の実施する退職金共済制度に加入している。

3. 拠点が作成する計算書類と拠点区分、サービス区分

当拠点区分の作成する計算書類は、以下のとおりになっている。

- (1) 建設特別会計拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号第4様式、第3号第4様式）
- (2) 拠点区分事業活動明細書（別紙3(㉑)）
 - ・「建設特別会計」
- (3) 拠点区分資金収支明細書（別紙3(㉒)）
 - ・「建設特別会計」

4. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は、以下のとおりである。

該当なし

5. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩

該当なし

6. 担保に供している資産

該当なし

7. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

（単位：円）

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他の固定資産			
建設仮勘定	3,851,244		3,851,244

合 計	3,851,244	0	3,851,244
-----	-----------	---	-----------

8. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高
債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は、以下のとおりである。

該当なし

9. 関連当事者との取引内容

該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11. 重要な後発事象

該当なし

12. その他の社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項

該当なし